

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

705

新興感染症等検査体制強化事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	7	健康で元気に暮らせる環境づくり
施策	3	生活衛生対策の推進
取組方針	2	検査体制の強化

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	○
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	衛生費		
	項	保健衛生費		
	目	衛生研究所費		
	大事業	衛生研究所事業		
中事業	新興感染症等検査体制強化事業			

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel 衛生研究所 畑村博史 453-0055
事業実施の根拠法令	食品衛生法・感染症の予防等に関する法律		関連課	総務企画課、生活保健課等

1 事業内容

	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)	全体事業概要				
事業目的	多様化する病原微生物による健康危機管理事象に対応するため、最新検査法の導入に努め、検査体制の強化を図りながら、原因究明検査を実施する。	新型コロナウイルスやMERS等新興感染症の出現に伴い、高度化・多様化する病原微生物に対応するため、最新検査法の導入に努め、調査研究により技術力を高め、検査体制の強化を図る。食中毒や感染症発生時には原因究明のための検査を行い、被害拡大の防止に努め、疫学調査を実施する。				
事業内容		令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		食中毒、感染症、有症苦情発生時の行政依頼に基づく検査及び疫学解析や感染症発生動向調査に関わる、市内病原体サーベイランスにかかる検査等を実施する。	食中毒、感染症、有症苦情発生時の行政依頼に基づく検査及び疫学解析や感染症発生動向調査に関わる、市内病原体サーベイランスにかかる検査等を実施する。	食中毒、感染症、有症苦情発生時の行政依頼に基づく検査及び疫学解析や感染症発生動向調査に関わる、市内病原体サーベイランスにかかる検査等を実施する。	食中毒、感染症、有症苦情発生時の行政依頼に基づく検査及び疫学解析や感染症発生動向調査に関わる、市内病原体サーベイランスにかかる検査等を実施する。	食中毒、感染症、有症苦情発生時の行政依頼に基づく検査及び疫学解析や感染症発生動向調査に関わる、市内病原体サーベイランスにかかる検査等を実施する。

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		令和07年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	17,138	81,222	11,800	27,010	11,826	11,426	7,666	0	7,666	0	
伸び率(%)	193.3%	57.1%	△31.1%	△66.7%	0.2%	△57.7%	△35.2%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	30,563	30,408	26,703	26,158	13,986	12,650	14,693	0	14,693	
	正規職員以外	1,537	1,629	5,358	5,322	3,732	3,533	3,109	0	3,109	
	小計	32,100	32,037	32,061	31,480	17,718	16,183	17,802	0	17,802	
国庫支出金	8,205	70,476	5,844	17,230	5,664	3,562	3,148	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源(税等)	8,933	10,746	5,956	9,780	6,162	7,864	4,518	0	7,666	0	
所要人数(人)	正規職員	3.94	3.92	3.43	3.36	1.78	1.61	1.87	0.00	1.87	0.00
	正規職員以外	0.67	0.71	1.46	1.42	1.02	0.97	0.82	0.00	0.82	0.00
主な予算内訳	消耗品費153千円、医薬材料費7,288千円、管理委託料495千円、機械等保守委託料3,348千円、業務用器具費542千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
活動指標	検査実施項目数(新興感染症等検査)	項目	20,603	23,752	3,207			
			達成度(%)	%	%	%	%	
活動指標	検査実施検体数(新興感染症等検査)	検体	15,622	15,550	1,009			
			達成度(%)	%	%	%	%	
成果指標	衛生研究所における検査可能項目数(新興感染症等検査)	項目	106	107	108	109	110	
			実績値	106	107	108		
			達成度(%)	100%	100%	100%	%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している		横ばい	○ 減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>新型コロナウイルス、炭疽菌、SFTSウイルス、デング熱ウイルス等市民の生命や健康に影響を与える恐れのあるバイオテロや新興再興感染症に関する情報を収集し、迅速に検査体制を整備している。また、25、26年度に市内で流行した風疹や麻疹、毎年大規模食中毒や施設における感染症を起こすノロウイルスや腸管出血性大腸菌0157等の遺伝子解析を実施することによって、原因を究明し感染の拡大を防いでいる。約3年に渡り流行した新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日に5類に移行されたことに伴い、サーベイランスが全数把握から定点把握になったことで、感染症等の検査業務もコロナ禍前の通常状態に戻りました。しかしながら、本市では、改正感染症法に従い、次の新たな感染症の流行に備えるために作成した、和歌山市感染症予防計画に基づき、健康危機事象発生時には迅速かつ正確な原因究明検査が実施できるよう平時から検査体制の維持・充実を図る必要がある。</p>
見直し・改善内容	<p>HIV検査は保健所の依頼により昭和62年より実施していたが、治療薬が開発され抗体検査が民間でも検査可能になってきたため、平成26年度から、世界エイズデー等のイベント時を除き、検査を民間委託とした。これにより、新型コロナウイルス、MERSウイルスやデング熱ウイルスなどさらに緊急性のある感染症の検査体制を充実させることができていく。今後も、実施している検査の内容を見直し、新たに必要とされる検査を実施できるよう検査の優先順位を考えていく。</p>